

《第67回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書》

	書名／作者名	あらすじ
小学校低学年	『あなふさぎのジグモンタ』 たかお ゆうこ // 絵 とみなが まい // 作	ジグモのジグモンタは、「あなふさぎや」をしています。洋服にあいてしまったあなをふさぐ仕事です。でも、みんなはすぐに新しいものを欲しがり…。ひとつのものを長く使う喜びを伝える絵本。「あなふさぎのうた」の楽譜付き。
	『そのときがくるくる』 すず きみえ // 作 くすはら 順子 // 絵	誰にでも嫌いなものってあるよね。きみはどう? ぼくにはあるよ。どうしても食べられないもの。おじいちゃんは「今は嫌いでも、いつかきっとおいしく食べられるときがくるさ」っていうけど…。
	『みずをくむプリンセス』 ピーター・H.レイノルズ // 絵 スーザン ヴァーデ // 文 さくま ゆみこ // 訳	朝早くから、遠くまで、水をくみにいくプリンセス・ジージーの願い。それは、だれもが、いつでも、きれいで安全な水を使えるようになること。アフリカの、ある水くみ少女の1日を描いた絵本。
	『どこからきたの? おべんとう』 鈴木 まもる // 作・絵	食べ物は、どこでできて、どうやって運ばれてくるのでしょうか? お昼の時間、男の子がおべんとう袋を開くと、おべんとうのほかに、おかずがどこからやってくるのかが書かれたメモが入っていて…。見返しにも文章&絵あり。
小学校中学年	『わたしたちのカメムシずかん』 鈴木 海花 // 文 はた こうしろう // 絵	校長先生の一言から、臭くてやっかいものカメムシを調べ始めた子どもたちは…。カメムシを最新の研究を基にわかりやすく紹介。「わたしのずかん」シート付き。『月刊たくさんのふしぎ』から生まれた、実話をもとにした絵本。
	『ゆりの木荘の子どもたち』 富安 陽子 // 作 佐竹 美保 // 絵	遠い夏の日の呼び声にこたえ、おばあさんたちは時を超えて、子どもにもどった。いまは老人ホームとして使われている「ゆりの木荘」。住人のひとり懐かしい手まり歌を歌いはじめると、玄関ホールの古時計の針が逆回転し…。
	『ぼくのあいぼうはカモノハシ』 ミヒヤエル・エングラール // 作 はたさわ ゆうこ // 訳 杉原 知子 // 絵	オーストラリアにはどうやって行くの? バスに乗る? ボート? それとも…。ドイツの男の子ルルスと、人間のことばをしゃべるカモノハシのとぼけたやりとりが楽しい、ゆかいな冒険物語。
	『カラスのいいぶん』 嶋田 泰子 // 著 岡本 順 // 絵	カラスは、ごみを散らかす嫌われもの!? でも、カラスにも、いいたいことがあるみたいで…。ハシブトガラスを主人公に、ひとの近くで生きることを選んだカラスの生活を追います。

小学校 高学年	『エカシの森と子馬のポンコ』 加藤 多一 // 作 大野 八生 // 絵	子っこ馬のポンコは、すきなところへ、すきなように歩いていく。でもある日、川の水の声も、風の声もいつもとちがって…。少女からおとなになる子馬のポンコを、やさしいまなざしで描く物語。
	『サンドイッチクラブ』 長江 優子 // 作	夏休み、小学6年生の珠子は、無心に砂像を作るヒカルと出会う。強烈な個性をもち、成績もトップクラスのヒカルは「戦争をなくすためにアメリカの大統領になる」と言い…。新たな世界に向きあっていく少女たちの成長物語。
	『おいで、アラスカ!』 アンナ・ウォルツ // 作 野坂 悦子 // 訳	子犬のときに飼っていたアラスカが、転校してきたスフェンの介助犬になっていた。それを知ったパーケルは真夜中、スフェンの部屋を訪ね、アラスカを連れ去ろうと計画し…。
	『オランウータンに会いたい』 久世 濃子 // 作	ボルネオ島の深い森でオランウータンの研究をしている著者が、自身の研究生活とともに、オランウータンのユニークな体や生活などを紹介。さらに、絶滅の危機に瀕するオランウータンのためにできることを考える。
中学校	『ウィズ・ユー』 濱野 京子 // 作	高校受験を控えながら、家族関係に悩み悶々と日々を送る悠人は、夜の公園でひとつ年下の少女、朱音と出会う。彼女は病気の母を支えながら家事を担う「ヤングケアラー」だった。悠人は彼女の力になりたいと思うようになるが…。
	『アーニャは、きっと来る』 マイケル・モーパーゴ // 作 佐藤 見果夢 // 訳	第二次世界大戦下のフランス山間部の村。羊飼いの少年ジョーは、ユダヤ人の子どもたちと出会い、彼らの亡命に協力することになる。さて、村人全員を巻き込んだ大騒動の逃亡劇の行方は…。
	『牧野富太郎 日本植物学の父』 清水 洋美 // 文 里見 和彦 // 絵	日本全国の野山を歩いて集めた標本は40万点。調べて分類し、名前をつけた植物が1500種類。「日本の植物学の父」とよばれる牧野富太郎の94年にわたる人生を描く。富太郎採集マップ、富太郎ゆかりの場所なども収録。
高等学校	『水を縫う』 寺地 はるな // 著	男なのに刺繍が好きな弟。女なのにかわいいものが苦手な姉。愛情豊かな親になれなかった母…。世の中の普通や当たり前を問い直す、6人の家族の物語。
	『兄の名は、ジェシカ』 ジョン・ボイン // 作 原田 勝 // 訳	4歳年上のジェイソンは、サムの子の自慢の兄。だけどこのごろ、少し様子が変わったみたいだ。一人の子どもがジェンダーや性的指向という問題にどう向き合っていくのかを、わかりやすく、誠実に、時にコミカルに描く。
	『科学者になりたい君へ』 佐藤 勝彦 // 著	どうすれば科学者になれるのか? 「インフレーション理論」を提唱した宇宙物理学者・佐藤勝彦が、自身の科学者人生を紹介しつつ、「科学とはどういうものか」「優れた科学者になるためには何をしたらよいか」などを語る。